

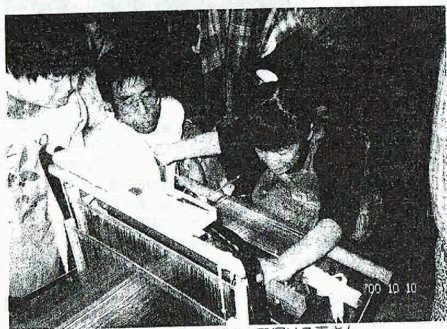
はばたけ No 54

2000年11月28日発行

栃木障害者の自立をめざす会

《会員数 現在269名》

事務局：〒328-0075 栃木市箱森町51-41 中山全央 TEL 0282(23)3236



さをり織り展で実演する殿塚はる恵さん

栃木秋祭りに参加して

施設建設のとりくみ

栃木青年サークルのこれから

共作連 第9回食品サービス関連作業所交流会に参加して

石塚 真由美

去る8月25・26日の2日間、大阪府にて全国の作業所から参加者が集まり食品づくりに取り組んでいる様子などの実践報告・分科会が行われました。

ゆうの家では、新しい授産課題に「パン」を予定しておりパンの分科会に参加しました。参加施設16施設の内、1/3が実施、残り2/3が実施予定でした。

報告の中では、朝4時から職員がパンを焼いたり、菓子パンの具を手作りしたり、原料などこだわるなど、また、販路問題・売れるパン作り・新商品開発・売れ低下など悩みの意見も出ました。作業では、職員2～3人と仲間（障害の中・軽度者）5～6人が各工程（成型・分割・丸め・包装・検品・仕上げ・配達など）を時間内でこなしているそうです。仕込み・オープンなどは職員が行っているそうです。作業設備品は、オープン・ミキサー・ドーコンディショナーなどで1千万円位は設備費にかかってしまうそうです。パン（生地）は「生き物」と同じように扱わないとせっかくいい生地が出来ても発酵・焼き上がり・味に差が出てしまい商品としての価値が下がってしまうとの事です。それだけ、扱うのが難しい食品の一つなのかも知れません。また、「一番最初に出すパンの味で今後の売上げに大きく影響する」・「一年の内2月・8月（夏期）は売上げが減少する」との意見も出ました。特に、今夏、世間を騒がせた「異物混入」についての問題が注目されました。これに対しては、保健所などで何の異物なのか原因を究明し、今後、混入防止の対策を立てるなどして納品先・お客様に対し報告も忘れずに行うとの事です。

分科会では熱の入った意見交換が行われ、限られた時間内では物足りないくらい聞きたいことが沢山ありましたがいい勉強になりました。新授産課題としてパンを始めるにあたってまだまだ課題はありますが、参加して得た情報や研修等を積み重ねてこだわりのあるパン作りが出来たらと思います。

どちぎ秋まつりに参加して

眼塚 治

去る10月27日から29日まで、シンボルロード完成記念イベントとして山車の巡行が行われました。通常は5年に一度行われる「どちぎ秋まつり」として山車が出るのですが、今年は4年目ですが特別なイベントとして行い、来年はまた正式に行うそうです。

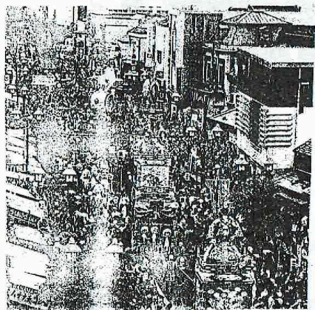
前回の時は38万人の人出であおいた物が売れたので、今回は我が自立の会も頑張って少しでも資金を稼ごうと初めて二カ所（とちっご広場と三旗屋本店前）にもフライとお餅の店を出店しました。

初日と二日は天気も良くまずの売り上げでしたが、最終日は雨で人も少なく残念な結果でした。しかし人さえ出ればそれなりの売り上げが確保できることがわかりました。また最終日は雨が

降って寒かったので臨機応変に「おしるこ」を作って売ったのが売りに上げにプラスになりました。

今回は新聞発表では31万人の人出だったそうですが、売り上げは約45万円でした。材料費が約15万円かかりましたが、残ったものは今後の各種イベントで販売するで利益はもっと出るでしょう。

多くの会員ボランティアにご協力いただきそれなりの結果は出すことができたと思いますが、もっと事前にきちんとした計画を立てていけば売り上げや人員配置などもっとよい結果を得られたと思います。今回は教訓として来年の本番はもっと資金を稼ごうと社会福祉法人設立を成功させたいと思います。



10月27日、29日の3日間、市内大通りに大形山車が繰り出すなど、シンボルロード完成記念イベントが盛大に開催されました。このイベントは、西暦2000年が盛大に開催されました。この日に、本市にとっての大変重要な記念すべき年であると同様に、東武バスグループの東武日光線の高架事業、さらに、北関東自動車道の本市のまちづくりの推進を記念し、21世紀に何かが、郷土の限らない発展を願って実施されました。出を記録しました。市内外から多くの人が参加し、延べ31万5千人の人

栃木障害者青年サークルのこれから

本間 英樹

みなさんは障害を持つ人たちの「青年サークル」をご存じでしょうか。障害を持つ勤労者や作業所などの施設に通う方たちのサークルですが、土日の余暇を有意義に過ごしたい、友達がほしい、みんなといるような体験をしていきたい、などの思いで保護者・作業所・学生ボランティアなどによって自主的に地域に作られるところが多いようです。広く知られている町田市の障害者青年学級のように公民館事業として様々なコースを設けて約200名の障害者が参加しているサークルもありますが、全国的にはまだまだ公的な保障は厳しい状況といえます。

私は学生のころや施設職員の時代に青年サークルと関わり、どれも月に1回程度の集まりでしたが、いろんな人達とも出会えるし新しい体験もできるので、毎回参加するのがとても楽しみでした。そんなわけで7年前に栃木に来たときも、ぜひまた青年サークルに参加したいと思い、知的障害者育成会栃木支部の援助をいただいでスタートしたのが「栃木障害者青年サークル」です。

毎月第2土曜日の午前10時から2時間、栃木勤労者総合福祉センターの大ホールにおいて、ゲーム・レクリエーションを楽しんだり、年に数回はパーベキューなど屋外での取り組みも企画しています。参加者は平均10名前後で、栃木や小山の施設や作業所に通所しているメンバーです。作業所の基本的な日課は作業中心となっているため、普段なかなか思いっきり体を動かすということが取り組みていないのが現状です。そうしたこともあり、このサークルではストレッチ体操から始めて、風船パレーや野球、サ

ッカー、ボーリング、グランドゴルフなどできるだけ体をいっぱい使うことを大切にしています。数少ないスタッフの一人である本間さんは、同じく働きの職員だからって持ちあげるわけじゃないのですが）レクリエーション指導もさすがにうまい！一人ひとりのペースを大切にしながらも全体を盛り上げてくれます。実際、自分も運動不足解消にいい汗をかくてみんなの楽しそうな笑顔を見ると、心身共にリフレッシュできるのです。

今年で6年目となる青年サークルですが、これからの課題もいくつかあります。まずは、サークルの仲間たちの要求をもとに今後の活動内容をどのように充実・発展させていくかを相談し、今後の方向性を出すことです。育成会の中には学習対象のサークルがあり、どのような提携関係をつくっていくのかも検討が必要です。これによって育成会からの補助金（年間6万円）の有効活用も可能となると思います。

また、活動を活性化させるために、メンバーの増員も必要ですが、その前提としてボランティアの確保が緊急課題です。毎年、福祉専門学校には募集するもの、なかなか参加してくれる学生さんがいません。スタッフがいつも2~3人という状況では取り組み内容も限られてしまいます。できればメンバー1対1で関わられるくらいのボランティア体制が望ましいのですが…。青年サークルの大きな魅力のひとつは、様々な人達と出会えることです。この「横のつながり」が、障害を持つ仲間たちにとって地域で豊かに暮らしていくうえで大切な宝なのです。皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

「さをり織り」親子展を終えて

殿塚 ケイ子

10月8日から一週間、隣のお宅をお借りして、はる恵と私の親子「さをり織り」展を開催しました。予想もしなかった800人を超える人達にご覧いただいたて感謝しています。

訪れた人達、皆さんが目を輝かせて、洋服を試着したり布を肩に掛けたりと、そして「この場に長く留まっていたいな」と口を揃えて言ったださったことに、とても励まされました。

親子展を通して、近所の温かさをあらためて感じました。はる恵が生まれ育ったこの地で出来たことに感謝しています。

これからも、はる恵と一緒に楽しく「さをり織り」を続けていきたいと思ひます。そして、多くの方々が様々な方法で自分を生き生きと表現できる時代を作りたいと思ひます。

皆様本当にありがとうございました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。



ゆうの家ニュース

ふれあいのつどい 11月5日

今年にはゆうの家の大場さんが実行委員長として全体のとりまとめを行いました。とちぎケーブルテレビにもちょっと緊張気味の大場さんのインタビューが放映され話題となりました。

当日は保護者・関係者の協力でもちやポテトフライなどの模擬店を出店したほか、仲間たちもステージで3曲発表してきました。

収穫祭 11月17日

今年も約40名の民生委員の方々と秋の交流収穫祭を開きました。あいにくの雨となりましたが、その分仲間たちの施設紹介や歌の披露に十分に時間をとり、交流を深めることができました。

術護祭 11月19日

栃木養護学校の文化祭に出店しました。仲間たちも校内を見学し、顔見知りの生徒さんと歓談するなど楽しんできました。

法人なすびの里設計プラン決定に向け保護者会開かれる

11月2日午後6時より大宮地区公民館にて、ゆうの家保護者会が開かれました。主な議題は

1. 授産施設とデイサービスセンターの実践計画について
2. 施設の基本設計について
3. 施設建設の経過報告と今後の進め方について

1については、職員よりそれぞれの大まかな計画案が出され、あおよそのイメージを共通認識として持ちました。今後さらに、仲間の実態や要求に合わせて具体的な計画を練っていく予定です。

2については、中央設計の社長より本施設の設計における基本的な考え方について説明があり、保護者から出された様々な質問や要望についても丁寧に応えていただきました。要望については可能な範囲で設計に活かされることとなります。

3については建設委員会より経過報告がありました。保護者からは、建設委員会や自立の会に於ける会議内容が保護者が十分に伝わらないために施設建設の進行状況や当面の課題が把握しづらい、自立の会と新法人の関係が今後どうなるのか、役割分担としていっている取り組みを実行委員会形式でやってはどうか、等の意見が出されました。

今後はそれぞれの組織の関係を役割を明確にすると同時に、話し合いの場を保障しそれぞれの会議内容をきちんと全体に報告していくことが重要です。また役割を分担することにより、一部の人の負担を軽減し会員一人ひとりの力を十分発揮し協力しあえるような取り組みのあり方も今後の課題だと思います。

今回の保護者会では様々な意見が出されましたが、しかしこうした問題を一つひとつ話し合っ解決していくことこそ、今後さらに大きな組織になるにあたってとても大切なことだといえるでしょう。

(薄田 和子)

自立の会の活動報告

●施設建設のとりくみ

- 11月9日(木) 第28回施設建設委員会
討議・排水と浄化槽に関する問題検討、平面図の討議等
- 11月23日(木・祝) 第29回建設委員会 於ゆーあい工房
討議・平面図面積確定、特殊浴槽・車両等の決定等
- 12月7日(木) 法人準備会
- 12月14日(木) 天然酵母パンづくり講習(授産課目の準備として)
- 12月22日(金) 国庫補助協議書提出

現在、建設委員会では12月下旬に提出する書類整備を進めているところです。仲間たちが仕事をしやすいと同時に、休憩の時、イベントの時などを想定して様々な意見を出し合い、施設の平面図はほぼ確定しました。さらに、その中に設置する厨房設備・事務機器・授産設備・特殊浴槽など、使いやすさ・価格などによってどれにするか検討されています。

仲間たちが取り組む新しい授産課目については、製パンと製めんに決定しましたが、さらにものようなパンづくりをめざすのか検討中です。地域に天然酵母を使用したパンづくりに取り組んでいる方があり、その方を講師に迎えて12月14日に吹上公民館において「天然酵母パンづくり講習」を開きます。興味のある方はぜひご参加下さい。

緊急の課題としては、排水の問題について地域の方々の合意をいただかなければなりません。現在までの話し合いによると、地域の用水路を利用していただくためにはかなり処理能力の高い浄化槽が必要となり、かなりの予算オーバーとなりそうです。また、農地転用(開発申請)の手続きも早急に進める必要があります。

施設建設募金

施設建設までの期間「街頭宣伝行動」に取り組みます。

毎週土曜日 午後1時～3時実施予定。場所については現在交渉中です。

詳しい内容は決まり次第ご連絡しますので、皆さんのご協力をお願いします。

●冬の物品販売

今月末が締め切りですが、取り組みの遅れもあり例年に比べるとまだ注文が少なめです。物品販売の収益の一部は仲間たちの作業会計に還元されます。仲間たちが楽しみにしている**冬のボーナス**を支給できるよう、お知り合いの方にもぜひ一声お願いします。

また、年末年始のお使い物等には、ぜひ**ゆうの家の作品**～みきん・竹細工花器・陶芸品～をご利用下さるよう、ご協力をお願いします。

自立の会・ゆうの家 12月の予定

- 12月1日(金) カルフルとちぎ(栃木県障害者文化祭) ステージ出演
3日(日) クリスマス会・ゆうの家保護者会
7日(木) 法人設立準備会
14日(木) 天然酵母パンづくり講習会
29日～1月5日 ゆうの家冬期休暇

●行事収益報告

- ◆**栃木市記念行事** 10月27日～29日 栃っ子広場・三樹園本店にて
もち・ポテフライ他 収益 約28万円
- ◆**ふれあいのつどい** 11月9日 栃木市保健福祉センター
もち・ポテフライ・わたあめ他 収益 約1.4万円
- ◆**蔵の街マラソン** 11月12日 栃木第三小学校
じゃがバター・あしるこ・わたあめ 収益 約7万円
- ご協力本当にありがとうございました!

●クリスマス会 2000 (同封のチラシを参照下さい)

日時: 12月3日(日) 9:30より受付 10:00開演 14:30終了
場所: 大宮地区公民館・大交流室

自立の会が主催するクリスマス会です。ご家族で楽しめますので、ぜひご参加下さい。参加申し込みは11月30日までに自立の会事務局または共同作業所ゆうの家まで

福祉ショップより

ショップの店頭には、大根・春菊・葉物などの野菜が並びようになりました。毎朝、星さんが収穫してくれた野菜をお客さんに買っていただき、「おいしかったよ」と喜んでもらえる、お店番をやっているもやりのがあります。たくさんとれたインヅメは、特に好評でした。

野菜を買いながら店内を見て行かれるお客さんも増えてきました。娘(真知子)にも声をかけて下さる方もいます。お店が閉まっとういて無人の時でも通りがかりに野菜を買って行かれるお客さんがいる一方、無人では何となく買ってしまうという方もいらっしゃいます。

はじめての人でも、「ちよつと覗いてみようかな」と入りやすいような雰囲気のお店になるよう工夫していきたいと思っております。ショップには仲間たちと一緒に作ったツキキもありますのでぜひ一度食べて下さい。(関 ヴキ)